

令和7・8年度 東京都教育委員会 デジタルを活用したこれからの学び 推進地区実践校
令和6・7年度 大田区教育委員会 教育研究推進校
理科教育推進拠点校

研究主題

「 こどもを中心とした
カリキュラム・マネジメント
～自由進度学習の可能性を探る～ 」
(スタートアップ・ガイド)

大田区立入新井第一小学校

もくじ

- 理論編
- 実践編



これから大田区立入新井第一小学校の研究発表
スタートアップ・ガイド 理論編 について、説明します。

本校では、研究主題を
「こどもを中心としたカリキュラム・マネジメント」
副主題を「自由進度学習の可能性を探る」として、
令和6年度から研究を進めてまいりました。

もくじ

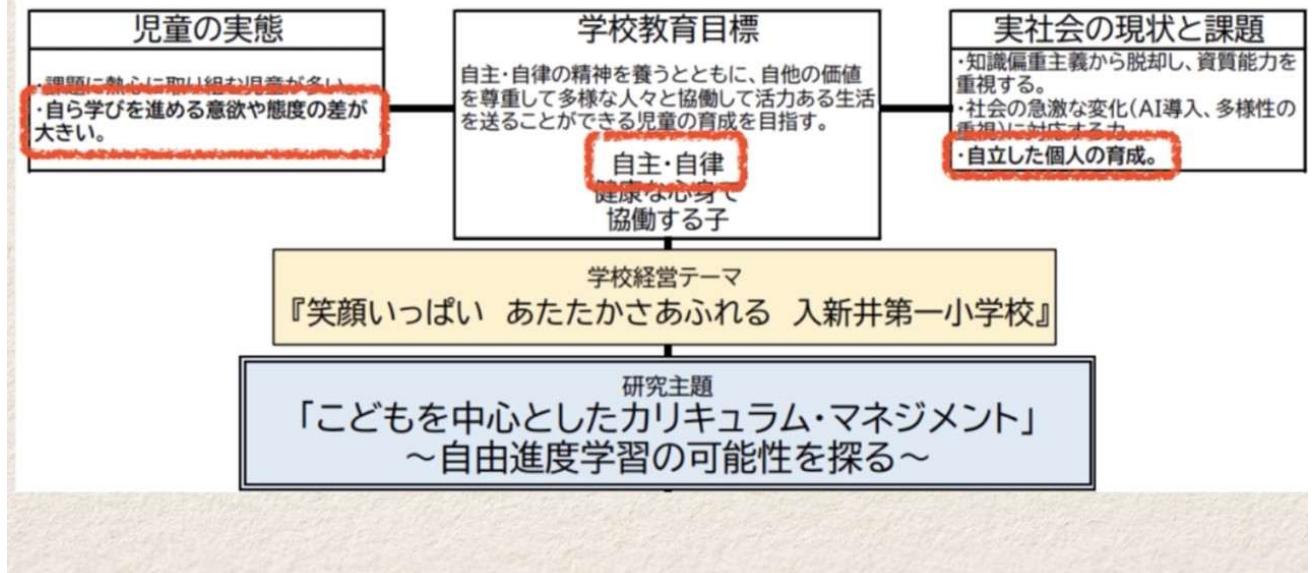
- 主題設定の理由
- 研究仮説・目指す児童像
- 自由進度学習とは
- 手だて
- 成果と課題

本日は、この理論編として、次の5点について説明します。

もくじ

- 主題設定の理由
- 研究仮説・目指す児童像
- 自由進度学習とは
- 手だて
- 成果と課題

まず、主題設定の理由についてです。



本校は「自主自律」を柱とした学校教育目標のもと、令和4年度から「自立した学習者」の育成を目指して研究を進めてきました。

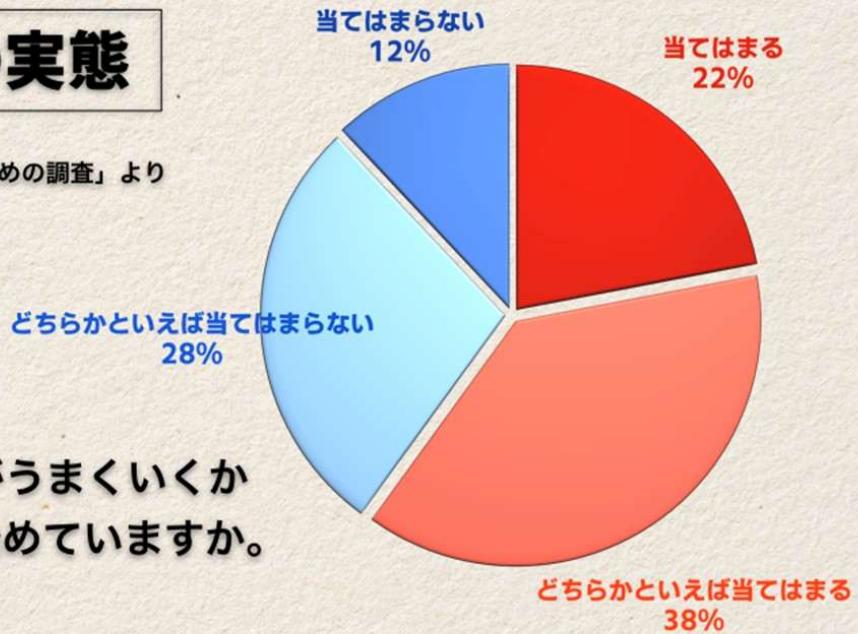
社会全体でも、多様な状況に対応し、自ら学び続ける「自立した個人」の育成が求められています。

しかし、本校児童の実態を見ると、自分で計画を立て、見通しをもって学習を進める意欲や態度には、大きな差がありました。

本校6年生の実態

令和5年度 東京都教育委員会

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」より



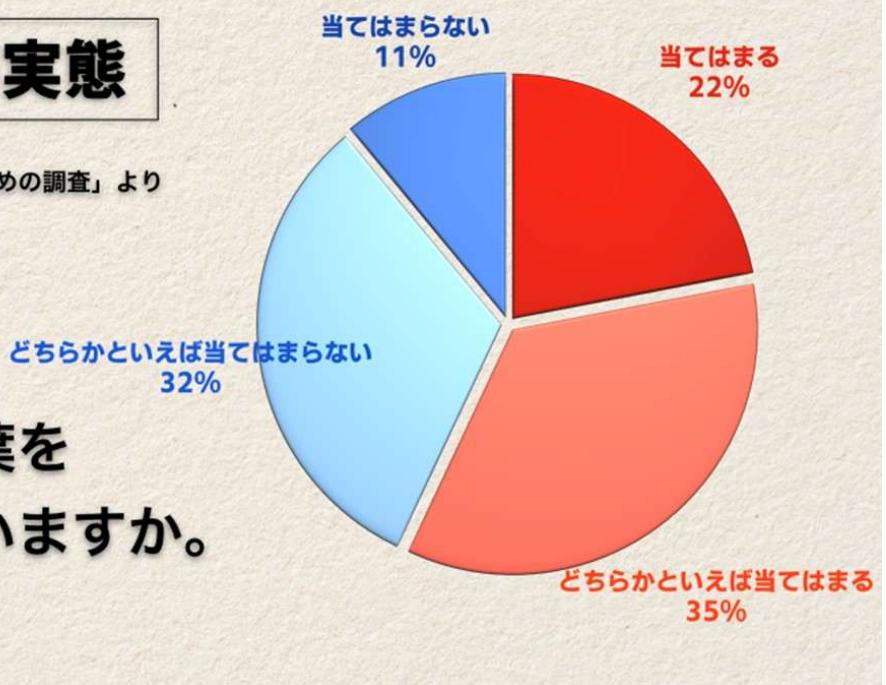
スライドのグラフのとおり、学び方を考えたり計画したりする習慣
がついていると感じている児童が6割と、そうでないと感じている
児童が4割と、児童の意識にも差があることが分かります。

本校6年生の実態

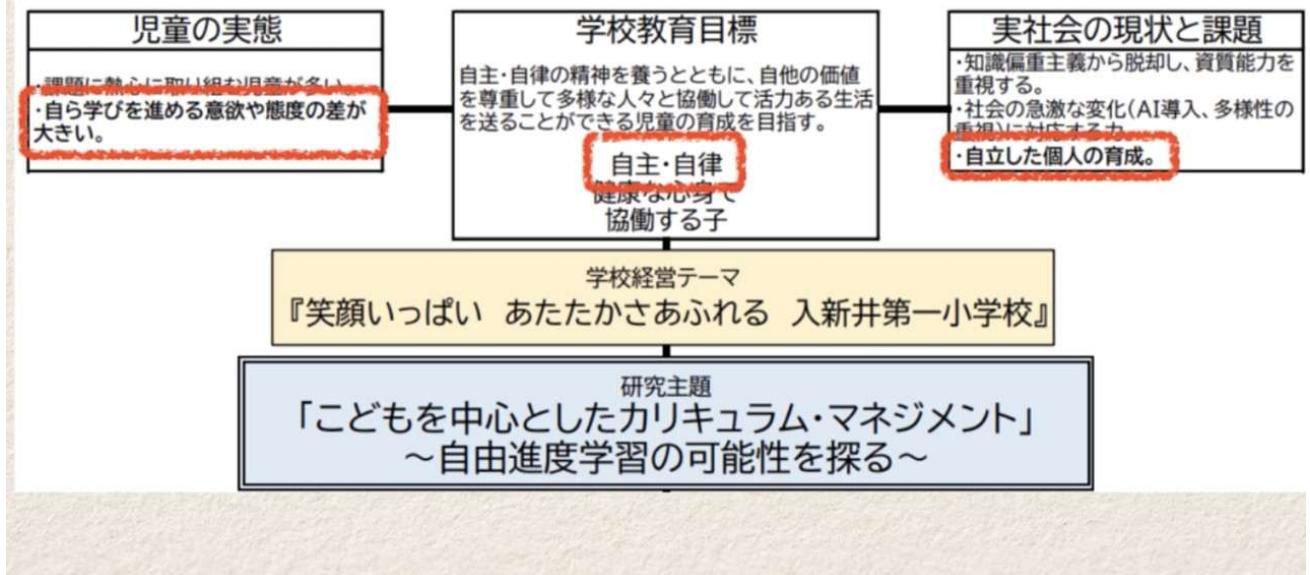
令和5年度 東京都教育委員会

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」より

わからない言葉を
すぐに調べていますか。



わからない言葉をすぐに調べるなど、自分で課題解決する意欲
や態度についても、同様の傾向が見られます。



そのような現状を改善するためには、こどもたちが自ら実践し、振り返る機会を意図的に設定した「学び方」を身に付け、こどもを中心においたカリキュラムづくりが不可欠であると考え、研究主題を「こどもを中心としたカリキュラム・マネジメント」としました。そして、有効な方法の一つである「自由進度学習」に着目し、研究を進めていくこととしました。

もくじ

- 主題設定の理由
- 研究仮説・目指す児童像
- 自由進度学習とは
- 手だけ
- 成果と課題

次に、研究仮説と本校の目指す児童像についてです。

研究仮説

単元内自由進度学習を取り入れ、
学習環境を充実させたり、
学習過程を工夫したりすることで、
児童が自分に最適な学びを計画・実行する
自立した学習者となるだろう。

研究仮説は、

「単元内自由進度学習を取り入れ、学習環境を充実させ、学習過程を工夫することで、児童が自分に最適な学びを計画・実行する、自立した学習者となるだろう」
としました。

目指す児童像

5・6年

自分に最適な学びを
計画・実行できる児童

3・4年

自分に合った学び方を選択し、
見通しをもって取り組むことができる児童

1・2年

自分のやりたいことを選び、
最後までやりぬくことができる児童

そして発達段階に応じて、次のように児童像を設定し、段階的に学び方の選択肢を広げることで、自分の学びをデザインし、実行する力を育成していくことを目指しました。

もくじ

- 主題設定の理由
- 研究仮説・目指す児童像
- 自由進度学習とは
- 手だて
- 成果と課題

次に、自由進度学習について説明します。

自由進度学習とは
「学習計画表」に基づいて自分のペースで
教科内容を学び進める方法。

(文部科学省「『自立した学び手』の育成を目指した自由進度学習の取組」より)

特に単元の中で行われる自由進度学習は、
「[単元内自由進度学習](#)」と呼ばれる。

自由進度学習とは、こどもたちが「学習計画表」に基づいて自分のペースで教科内容を学び進める方法で、欧米などでは学年の垣根を越えて行われる場合もあります。

日本の学校スタイルや学習指導要領に合わせた形で研究実践されている方法は、「[単元内自由進度学習](#)」と呼ばれており、本校では、「マイプラン・タイム」という独自の呼称を設定して取り組んでいます。

「個別最適な学び」 = 「指導の個別化」 + 「学習の個性化」

		学習方法	
		教員主体	子供主体
学習内容	教員主体	A一斉指導 指導の個別化	B課題解決学習
	子供主体	C課題選択学習 学習の個性化	D問題解決学習
↑ 単元末などの課題選択学習			東京学芸大学 佐野亮子先生より

課題 ≠ 問題
課題 = 「課された題（タスク）」
問題 = 「自ら問う題（クエッション）」

単元内自由進度学習

総合的な学習の時間
生活科

こちらは、校内研究のご指導をいただいている、東京学芸大学佐野亮子先生に教えていただいた単元内自由進度学習を「学習内容」と「学習方法」で整理した表です。

単元内自由進度学習は、「学習内容」は教師が示し、「学習方法」はこども主体で選択して進めていく右上の部分に当たります。

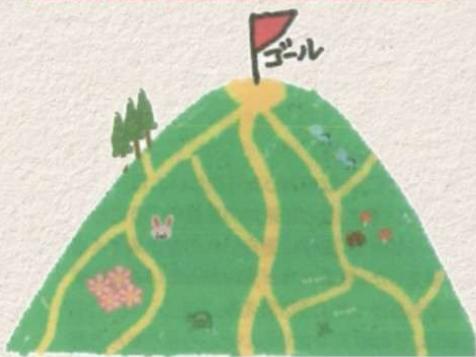
「総合的な学習の時間」などとのちがいを特に意識しながら、教材の選定や教材研究を進めています。

子どもの文脈で学ぶ

一律一斉の授業



自由進度学習



三鷹市立第三小学校研究発表会資料より

子どもの文脈=子どもの興味・関心・探究心を基盤とした、思考の流れに沿った学びの道筋のこと

自由進度学習を山登りにたとえると、一律一斉授業では一本道を全員で登る形です。進みが速い子は待ち、遅い子は急がなければなりません。

一方で自由進度学習は、寄り道や順番の違いを認めながら、さまざまな道を通って同じ頂上を目指します。

教師は、目の前にいる子どもの状態の背景には理由があるという考え方をもち、子どもへの理解を深めることで、一人ひとりの学びを保障することができます。

もくじ

- 主題設定の理由
- 研究仮説・目指す児童像
- 自由進度学習とは
- 手立て
- 成果と課題

次に、このような単元内自由進度学習を、児童が自ら進められる
ようにするための具体的な手立てについて説明します。

手だて

- ①学習環境の充実
- ②学習過程の工夫

主な手だては、「学習環境の充実」、「学習過程の工夫」の2つです。

手立て① 学習環境の充実

「すべての子どもは
生まれながらにして 有能な学び手である」

奈須正裕教授 『資質・能力と学びのメカニズム』より



こどもたちの

！（発見） ?（疑問） !?（驚き）
が動き出す

本校の研究に対して、上智大学の奈須正裕教授から御指導いただいた「すべての子どもは 生まれながらにして 有能な学び手である」という基本的な考え方をいかし、「こどもたちの ！（発見） ?（疑問） !?（驚き）が動き出す」をキーワードに、児童が自ら問題を見出し、解決していくことを促す学習環境づくりを目指しています。



例えば、こちらは理科室前に作成した人体に関する学習コーナーです。なるべくこどもたちがさわったり体験したりして、楽しみながら、体のしくみに興味をもつききっかけとなることを目指して作成しました。



こちらは5年生算数「合同な図形」の学習環境です。

分度器の使い方を復習するための練習スペースを廊下の壁面に作成するところもたちは自分から測り始めました。ちょっとした工夫で、子供たちが楽しみながら、自然と学習に向かう効果がありました。



こちらは、季節の変化を楽しむ展示スペースです。

写真や図鑑、クイズやなぞときも交えて季節ごとに変化する動植物の様子を楽しみながら学びます。

こちらの展示のポイントは、壁面だけでなく、天井を活用したり、たたみをおいてリラックスできるスペースにしている点です。

学習環境がもたらす効果

- ①雰囲気、動機付け、見通し
- ②学習履歴、成果の可視化
- ③学習材・情報提供

こうした環境は、雰囲気や動機付けを高めること、成果を可視化すること、そして日常に学びを広げることにつながります。

手だて② 学習過程の工夫

- ・二教科（または二単元）同時マイプラン・タイム
- ・学習マップの提示
(単元指導計画を子どもに開示)
- ・パワーアップミッション（探究的な課題）の充実
- ・振り返りの習慣化

次に、学習過程の工夫についてです。

具体的には、この4点を実践しています。

二教科（または二単元）同時マイプラン・タイム

複数教科（複数単元）で実践するメリット

- ①2教科（単元）分の長期的な取組の中で、課題のやり直しや繰り返しが可能になる。
- ②人数分の器具や道具類を揃えなくても、一人で実験などが成立する。
- ③どちらの教科（単元）からやるか選べることで、学習意欲が高まる。
- ④2教科（単元）同時展開なので、それぞれ取り組む順番などが変わり、他の人と進み具合が比べられなくなる。（真に自分のペースでできる。）
- ⑤不要に待たされることがないので、必修課題が予定より早く終わり、発展学習を楽しむことができる。

東京学芸大学 佐野亮子先生より

二教科、または二単元同時マイプラン・タイムについては、例えば、国語と算数の二単元を同時にマイプラン・タイムで扱うような取り組みを指します。こどもたちは、取り組むべき課題の順番をそれぞれに選んで、教師が設定した合計時間数の中で計画を立て、自分のペースで課題をクリアしながら学び進めます。

複数教科や複数単元で実践するメリットは、スライドの記載のとおりです。特に、本校の児童にとっては、課題のやり直しや繰り返しが可能になる点、一人で実験や楽器など教具を使える点、発展学習を楽しむことができる点に大きなメリットがあると感じました。

学習マップの提示

(単元指導計画をこどもに開示)

学習マップ 物のとけ方

	ミッション名	内容	ヒント	場所	完了
みんなで	溶けたものの ゆくえ	○水にとけて見えなくなった物は、どうなったのだろうか。	教p.96-98	理科室A	○
ひとりで	限界に挑戦！	○物が水にとける量は物によってちがいがあるのだろうか。	教p.101-103	理科室B	
	水の量を 変えたら？	○水の量によって物のとける量は変わるのだろうか。	教p.104-107	理科室B	
	水の温度を 変えたら？	○水の温度によって物のとける量は変わるのだろうか。	教p.104-107	理科室A	
	一度とけた物を とり出そう	○水にとけた物は、どのようにすればとり出すことができるのだろうか。	教p.108-110	理科室A	
	★確認プリント→自分で答え合わせ			個人ブース	
	パワーアップ	○とけるものランキング ○宝石選手権 ○一番おいしいレモネード屋さんはだれだ? ○トイレットペーパーは本当に「とける」? ○スノードーム ○自主研究		サイエンス ワールド	

学習マップとは、単元指導計画のことです。

この「学習マップ」を提示することで、こどもたちが単元全体を見通し、自分で学習計画を立てることができるようにする手立てとしています。

パワーアップミッション（探究的な課題）の充実



「パワーアップミッション」とは、単元の終盤に学習したことを生かして取り組む探究的課題のことです。例えば、合同な图形の学習では、オリンピックのエンブレムやサッカーボールに関連づけ、実生活とつなげて学びを深めました。

振り返りの習慣化

マイプランシート

名前()

単元のゴール

○合同な図形をかくときに大切なことを理解する

学び方のめあて

学び方のめあて

例 例 5/1 (水)

① 「合同」を理解する。
② マイプランを立てる。
③ ミッション1に取り組む。

① ○(終わつた)。
② △(終わつた)。
③ ×(始めていない)。

ふりかえり
・①んばつたこと
・②なんだこと
・③れから
・④表を横に見ると、比例の関係を見つけることができました。
・⑤次はミッションを2つ進められるようにしたい。

1. 計画

・ふりかえり
・計画の修正

振り返りの習慣化については、マイプランシートという「振り返りシート」を用いて、自分の計画と実行を見直し、次の学びにつなげる手立てによって、身に付くようにしました。

もくじ

- 研究主題の設定
- 研究仮説・目指す児童像
- 自由進度学習とは
- 手だて
- 成果と課題

最後に、成果と課題についてです。

成果 こどもの声から

- ・「周りを気にせずに学習できることが良い」
- ・「何回もやり直せることが良かった」
- ・「苦手科目ではなくなった」
- ・「音楽ではいつもとちがう楽器に挑戦していろいろな楽器の音色の良さに気が付いた」
- ・「一人でできた時の達成感が好き」
- ・「とにかくパワーアップミッションが楽しい」
- ・「一人で納得するまでやると完璧に理解できる」
- ・「自分のわからない部分が分かる」

「自分のペースで進められる」「やり直しができる」「自分に合った方法で学べる」など、9割以上の児童が肯定的に答えていました。自立した学習者への第一歩となつたことが大きな成果です。

成果 教師の変容から

- ・指導観の広がり
- ・教師同士のチームワークアップ
- ・教師も得意を生かして創意工夫

また教師の側にも変化がありました。

「指導観の広がり」や「学力差への対応」、「教材研究を通じたチームワークの向上」などです。

今後の課題

- ・系統性を意識したカリキュラムの整理
- ・見方・考え方を踏まえたカリキュラム開発
- ・基本的な言語能力の確かな育成

一方で課題もあります。

1つ目は、系統性を意識したカリキュラムの整理です。

教科ごとに系統性を意識し、どの学年でマイプラン・タイムを取り入れるのか整理していくことで、学校全体として統一した指導ができると考えています。

2つ目は、教科ごとの見方・考え方を踏まえたカリキュラム開発です。

各教科の特性を意識した教材づくりを継続して行うことで、より質の高い学びを保障できます。

3つ目は、基本的な「読む・書く」知識や技能の確実な定着です。自ら学ぶためには、これらの基本的な言語能力が不可欠であり、自由進度学習を進める上でも土台となります。



以上で 大田区立入新井第一小学校
研究発表スタートアップ・ガイド 理論編 について
ご説明を終わります。



これから 大田区立入新井第一小学校
研究発表スタートアップ・ガイド 実践編 について説明します。

もくじ

- 指導者が準備するもの
- マイプラン・タイムの授業づくりの方法
- 本校の実践
- 教科、単元選びのポイント

ここでは、マイプラン・タイムの実施に向けて、次のことに取り組みました。順番に説明します。

○指導者が準備するもの

- ①学習マップ（児童向けの学習指導計画）
- ②マイプラン・タイム説明書
- ③マイプラン・シート（計画表・ふり返りシート）
- ④学習シート

実施に向けて準備するものとして、全校共通で①学習マップ、②マイプラン・タイム説明書、③マイプラン・シート、④学習シートの4つに取り組んでいます。一つずつ紹介します。

○準備するもの

①学習マップ（児童向けの学習指導計画）

学習マップ ふりこのきまり			
	ミッション名	内容	
全体	やってみよう	○ふりこを曲のテンポに合わせてみよう。 ★「ふりこ」とは？ p.138-139	
個人		○ふりこの1往復する時間は、何によって変わるのだろうか。	
	エジソン	変える条件：ふりこの長さ p.143	
	ニュートン	変える条件：おもりの重さ p.144	
	AINシュタイン	変える条件：ふれはば p.145	
	ガリレオ	まとめ	
★確認プリント→自分で答え合わせ ★チェックテスト→先生へ提出			
個人 または 協力	パワーアップ	○東京スカイツリーのふりこのヒミツを探ろう。 ○大きなふりこでもきまりは成り立つか調べよう。 ○おもりの重さの不思議にせまろう。 ○ふりこを使ったおもちゃを作ろう。 「1秒ふりこ」「校歌ふりこ」「カオスな動きの体操人形」 「バネふりこ」「ニュートンのゆりかご」 ○自主研究 スライドにまとめて、発表します。	

学習マップは、児童が単元の概要や流れをつかむための一覧表です。一時間目に児童に示して、全体でオリエンテーションを行い、課題や学習環境の使い方を伝えます。

○準備するもの

②児童向けのマイプラン・タイム説明書

マイプラン・タイム 説明書

マイプラン・タイムって何？

自分で計画を立てて、自分で学習をする時間のことです。
一人ひとり、自分のペースで学習を進めます。

どうしてマイプラン・タイムをするの？

みんなに、一人でも学ぶことができるようになってほしいからです。「わかる」、「できる」だけでなく、計画を立てたり、問い合わせをもらったり、自分の学習を振り返って次に生かすことができるようになってほしいと思っています。

先生は教えてくれないの？

困ったら、先生や友達に聞いていいです。
でも、まずは自分で考えて、調べて取り組んでみましょう。

早く終わったらどうするの？

早く終わった人は、「パワーアップミッション」などに挑戦します。そのほかにも、自分に足りない学習を進めたり生活の中で関連することを見つけたりして学習を深めてください。

約束

「自分の学習」を意識しよう。「わかったふり」をしません。「速いこと」が良いわけではありません。

こちらはマイプラン・タイム説明書です。

児童がマイプラン・タイムをスムーズに進められるように、ねらい
や学び方、教師のかかわり方などを示します。
こちらは児童が初めてマイプラン・タイムに取り組む際に使うもの
です。

○準備するもの

③マイプランシート

マイプランシート				
名前()				
単元のゴール				
○合同な图形をかくときには大切なことを理解する				
学び方のめあて				
学び方のめあて				
例	月/日 (曜)	計画	実施	ふりかえり
	5/1 (水)	①「合同」を理解する。 ②「マイプラン」を立てる。 ③「ミッション」に取り組む。	①○(何がいい)②△(なぜいい)③×(何がいらない)	・①んぱったたこと・②なんだと・③れから ・④を目標に見ると、比例の関係を見つけることができました。 ・⑤次はミッションを2つ進められるようにしたい。
		・計画		・ふりかえり ・計画の修正

マイプラン・シートは、児童が学びを自己調整するための手立てとして使うシートです。1時間目のオリエンテーションの後に、学習マップを見ながら学習計画を立て、毎回の授業の終わりに学びを振り返り、計画の修正などを行い、教師に提出します。教師は主体的に学習に取り組む態度の学習状況を把握する資料として指導に生かします。

○準備するもの

④学習シート

題材「ふりこのきまり」学習シートA

名前()

問題
○ふりこの長さを変えるとふりこの一往復する時間は変わるのだろうか。

仮説
ふりこの長さを変えるとふりこの一往復する時間は_____と思う。
なぜなら_____

計画
変える条件は~、いつも~、ひとつ!!

ふりこの長さ cm cm cm
おもりの重さ g g g
ふれはば * * *

図
(ひも、おもり)

結果

	①	②	③
ふりこの長さ	cm	cm	cm
1回目	秒	秒	秒
2回目	秒	秒	秒
3回目	秒	秒	秒
合計	秒	秒	秒
平均(10往復)	秒	秒	秒
+10 +1往復する時間	秒	秒	秒

結論
ふりこの長さを変えるとふりこの一往復する時間は、

★結果を共有しよう!ヒントコーナーへ GO!

学習シートは、従来のワークシートのようなものです。マイプラン・タイムでは、学習内容等に応じて紙とデジタルを併用し、一つの課題に一枚の学習シートを用意しています。こどもたちが一人で学習を進められるように、従来行っている指示や補足説明をシートに加えることを意識しています。

○マイプラン・タイムの授業づくりの方法（入一小版）

その1 単元のゴールを確認

（学習指導要領解説）

その2 学習マップづくり

（教科書の指導計画を参考にする）

その3 パワーアップミッションの設定

その4 学習環境づくり

続いて、本校が現段階で最適と考える単元内自由進度学習の授業づくりの方法を紹介します。

その1 単元のゴールを確認

(学習指導要領解説)

(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができ
るよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに、図形の合
同について理解すること。

(イ) 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。

(ウ) 円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること。

(エ) 円周率の意味について理解し、それを用いること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察し
たり、図形の性質を見いだし、その性質を筋道を立てて考え説明したり
すること。

まずははじめに、単元のゴールを確認します。

教科書ではなく、各教科の学習指導要領解説を確認することが
ポイントです。

その2 学習マップづくり

(教科書の指導計画)

★複数の会社の教科書を見比べるとよい。

学習マップ ふりこのきまり		
	ミッション名	内容
全体	やってみよう	○ふりこを曲のテンポに合わせてみよう。 ★「ふりこ」とは？ p.138-139
個人	エジソン	○ふりこの往復する時間は、何によって変わるのだろうか。 p.140-142
	ニュートン	変える条件：ふりこの長さ p.143
	アインシュタイン	変える条件：おもりの重さ p.144
	ガリレオ	変える条件：ふれはば p.145
		まとめ
★確認プリント→自分で答え合わせ ★チェックテスト→先生へ提出		
個人 または 協力	パワーアップ	○東京スカイツリーのふりこのヒミツを探ろう。 ○大きなふりこでもきまりは成り立つか調べよう。 ○おもりの重さの不思議にせまろう。 ○ふりこを使ったおもちゃを作ろう。 「1秒ふりこ」「校歌ふりこ」「カオスな動きの体操人形」 「باءふりこ」「ニュートンのゆりかご」 ○自主研究

スライドにまとめて、発表します。

次に学習マップ作りです。

教科書の指導計画を参考にしながら、課題を設定します。

このとき、教科書では、一単位時間 45 分の活動を想定して編集されているため注意が必要です。学習時間数は、ペースがゆっくりなこどもも含めて、全員が必修課題を終えられる時間数を想定して設定しています。

その3 パワーアップミッションの設定 (探究的な課題)

- ①身近な題材
- ②工作・作図
- ③スケールの大きなもの
- ④謎解き系

探究的な課題であるパワーアップミッションは、こどもたちの実態に合わせて興味をひきそうなものを設定します。学年の教員等でスライドに示しているような視点で知恵を出し合い、バラエティに富んだ課題を設定し、こどもたちが楽しんで学習できるようにしています。

その4 学習環境づくり

ポイント

①学習材(学習者から見て、学ぶための材料)を常時使えるようにする

↓

児童が自分のタイミングでアクセスできる

②学校全体を学びの場ととらえる

↓学びの場は教室だけではない！

日常と関連した学び・学年を超えた学びへ

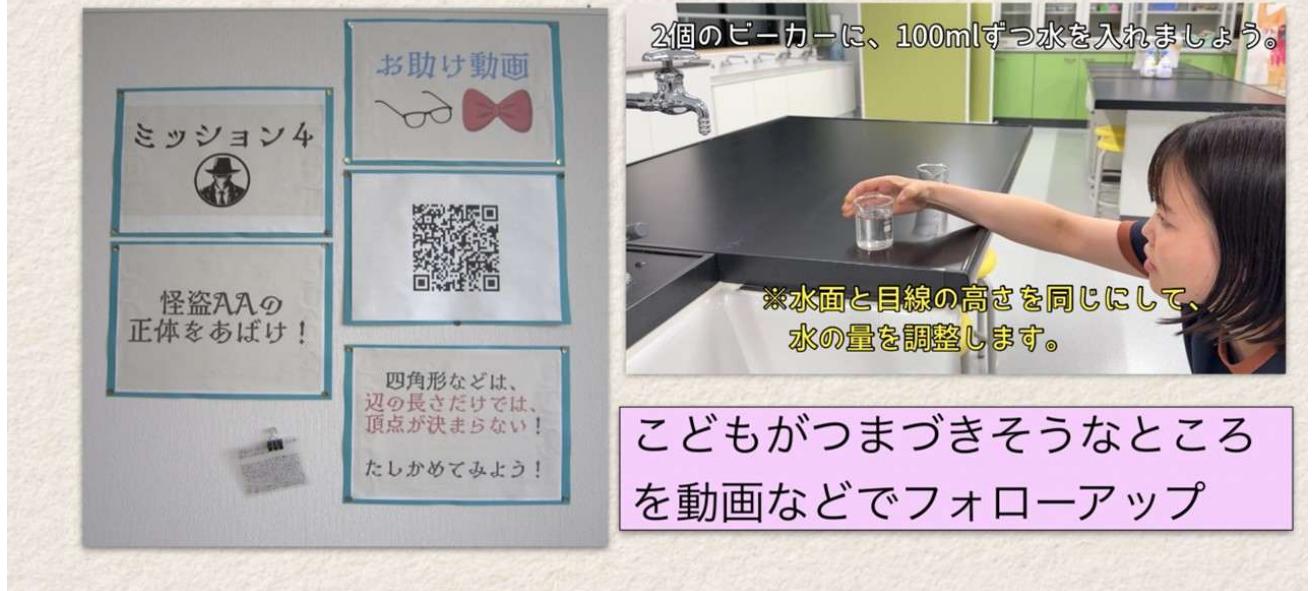
続いて、学習環境づくりについて紹介します。ポイントは2点です。

1点目は、単元全体の「学習材」を常時使えるように設置し、児童が自分のタイミングで学習材を使い、学び進めることができるようになります。

2点目は、学校全体を学びの場と捉え、教室だけではなく様々な場所に学びのしきけを作り、日常と関連した学びや学年を超えた学びにつなげることです。

これらを意識して作成した学習環境を写真を交えて紹介します。

その4 学習環境づくり



ミッション4
怪盗AAの正体をあばげ！

お助け動画
QRコード

四角形などは、辺の長さだけでは、頂点が決まらない！
たしかめてみよう！

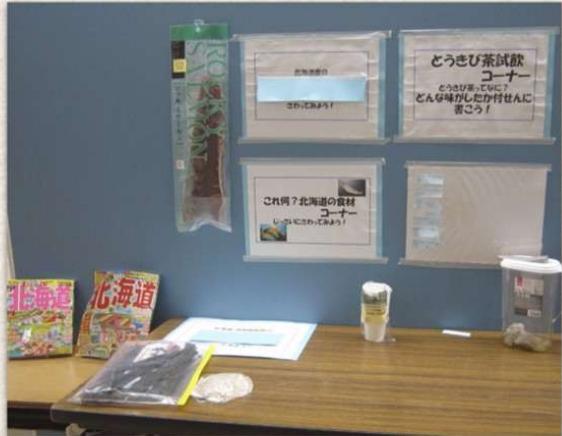
2個のビーカーに、100mlずつ水を入れましょう。

※水面と目線の高さを同じにして、水の量を調整します。

こどもがつまづきそうなところを動画などでフォローアップ

こちらは、お助け動画です。こどもたちがつまづきそうな作図の仕方や実験操作などは、お助け動画でフォローしています。この動画は、児童が必要だと感じたタイミングで見ることができます。このとき、実際に使用する教具で、普段教えている教師の声で動画を作成するようにしています。

その4 学習環境づくり



実物にふれる活動や操作的な活動

次に実物に触れる活動や操作的な活動を重視しています。展示する資料はできるだけ実物を用意しています。また、操作的な活動を入れることで、理解が深まることがあります。

その4 学習環境づくり



大きさや長さなどの量感を
体感できるもの。

次に、大きさや長さの体感できる掲示です。実物を持ってこられないものに関しては、再現した掲示をすることで、こどもたちの学びを広げたり深めたりすることができます。これらはいつでも見たりさわったりできるようにしています。

その4 学習環境づくり



床や天井、壁面も使って

最後に空間の使い方です。教室だけでなく、廊下やちょっとしたスペースは全て「学びの場」ととらえ、床や天井、壁面も使い、立体的な学習環境づくりを目指しています。そうすることで、校内の雰囲気が変わり、こどもたちの学習意欲がぐっと高まりました。

○教科・単元選びのポイント

①2教科や2単元を組み合わせる

組み合わせは、**系統**の異なるものがおすすめ

例：国語＆算数　社会＆算数　社会＆理科

②個人差の出やすい単元、実技系の内容

③単元のすべてを自由進度学習にしなくてもよい

次に単元内自由進度学習を行う、教科・単元を選定する際のポイントをご紹介します。

1点目は、2教科や2単元を組み合わせることです。

組み合わせは、系統の異なるものがおすすめで、例えば、国語＆算数　社会＆算数　社会＆理科などです。

2点目は、個人差の出やすい単元、実技系の内容を選ぶことです。

3点目は、単元のすべてを自由進度学習にしなくてもよいという点です。

効果的な活動になるよう、選定しています

○本校の実践

1学期に1回程度の頻度で、
実態に応じて、2教科2単元、1教科2単元の
マイプラン・タイムを実践

次に、本校の実践についてです。

頻度は1学期に1回程度、実態に応じて、2教科2単元または1教科2単元のマイプラン・タイムを実践しています。そうすることで、こども自身が学習する教科を変更して、集中力を回復させたり、順序選択ができたりして、学習意欲を維持できていることを実感したからです。

続いて、各学年の今年度1学期の実践をご紹介いたします。



1年生は初めてのマイプラン・タイムということで、国語一教科の2単元で行いました。

こちらは、名詞や動詞が書いてあるパズルを使って 廊下で文章作りをしている様子です。一人で取り組むことが難しい児童でも短文作りができることを目指しました。主語の偏りが目立つという課題をパズルによって解決できました。



こちらは、探究的な課題 パワーアップミッションのしりとり遊びです。しりとりを長く続けるほど、花火が高く上がるような掲示物になっています。廊下に 花火の形で掲示することで、友達の学習活動の様子を見合うことができます。



2年 国語科
「こんなものみつけたよ」

21

次に2年生です。

こちらは国語科 文章の組み立ての単元です。文章を入れ替えることで、読みやすい文章の並び方を考えることができるような学習環境を作成しました。教室だけではなく、フリースペースを活用した操作的な活動で、理解が深まる児童が多くいました。



2年 算数科
「100より大きい数」

こちらは2年算数科「100より大きい数」の単元で、100個以上ある輪ゴムを実際に手に取って数える様子です。空き教室に複数のブースを作り、様々なものを自分のペースで数える活動を多く取り入れ、量感を養えるようにしました。

ミッション3 セレクト!
～つたえたいこと～

○×の中から、とくにつたえたいことを3つくらい
えらびます。おらんだシートにはシールをはって目
印にします!

*ひとつや二つや三つなど、つたえたいことを3つ
以上にします。

ミッション4 あなたはどれ派
～報告スタイル～

○ここでもほうこくの仕方を
えらびます!

②なりきりレポート

※2年国語「どうぶつ園のじゅうい」のように、
一日の様子を書きま
す。(日記のような
書き方です。)

①ひみつレポート

※3年国語「仕事のくふう、
見つけたよ」のように、調
べて見つけたひみつや
くふうを書きます。

③クイズレポート

※1年国語「くちばし」
(今の教科書では「つばみ」)のよう
にクイズのような文章
です。写真が必要です。

3年 国語科
「仕事のひみつをさがせ大作戦」 (報告文)

3年国語科 報告文を書く単元です。

「秘密レポート」「なりきりレポート」「クイズレポート」の3つの型を

用意し、自分で報告文のスタイルを選べるようにしました。

自分で選択することで、学習意欲が高まりました。



3年 理科
「風やゴムのはたらき」

こちらは理科「風とゴムのはたらき」の単元です

個人で実験に取り組んでいる様子です。長い距離をとれる廊下を活用し、風やゴムで動く車の実験場所を作り、いつでも実験できるようにしました。



4年社会科「大切な水」の单元です。

一人当たりが一日に使う水の量 約 220L を、2L ペットボトル 110 本を使って可視化しました。单元の導入で児童に提示し、「こんなにたくさんの水を使っているんだ」という、驚きをもとに水の大切さについて学習する意欲を持続させる効果がありました。



理科「雨水のゆくえ」の単元です。

こちらは、水のしみこみ方を比較する学習環境です。粒の大きな砂に見立てた 机 と 粒の小さな土に見立てた 椅子 の間を児童が実際に通る体験を通じて、水のしみこみ方を体感的に理解させることができました。



5年社会科「暖かい土地と寒い土地のくらし」の単元です。暖かい土地の代表 沖縄県と 寒い土地の代表 北海道の2つのブースに分けて、廊下やフリースペースに特産品を展示しました。



こちらは算数の合同な図形の単元です。学習部屋に入る前の入室チェックとして、分度器で壁面の角度を測らせます。プリントではなく壁面に練習問題をつくるだけで、楽しみながら測っている様子がありました。



29

こちらは算数の合同な図形の単元です。学習部屋に入る前の入室チェックとして、分度器で壁面の角度を測らせます。プリントではなく壁面に練習問題をつくるだけで、楽しみながら測っている様子がありました。

6年 理科「動物の体のしくみとはたらき」



こちらは理科「動物の体のしくみやはたらき」の単元です。

探究的な課題であるパワーアップミッションをフリースペースに展示し、材料も見本もいつでも触れるようにしました。



以上で 大田区立入新井第一小学校
研究発表スタートアップ・ガイド 実践編を終わります。